

1. 科目名 (単位数)	子どもと音楽 (2 単位)		3. 科目番号	
2. 授業担当教員	杉原 由利子			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本授業では、領域「表現」のなかの「音楽」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な音遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。具体的には以下の事項について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児の音や音楽による表現の姿や、その発達を理解する。</li> <li>2. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、乳幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。</li> </ol>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。</li> <li>2. 音楽を生成する過程について理解している。</li> <li>3. 乳幼児の素朴な音遊びを通しての表現を見出し、受け止め、共感することができる。</li> <li>4. 様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。</li> <li>5. 身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特徴を生かした表現ができる。</li> <li>6. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。</li> <li>7. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。</li> <li>8. 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、乳幼児の表現活動に展開させることができる。</li> </ol>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 期末レポートを課します。</li> <li>2. 課題小レポートを課します。</li> </ol>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 使用しない</p> <p>【参考書】 秋田喜代美・三宅茂夫監修「子どもの姿からはじめる領域・表現」みらい (2021 年 4 月)          文部科学省『幼稚園教育要領』(平成 29 年告示)          厚生労働省『保育所保育指針』(平成 29 年告示)          内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』(平成 29 年告示)</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児の音や音楽による表現の姿や、その発達を理解し、説明することができるか。</li> <li>2. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことにより、乳幼児の表現を支えるための感性が豊かになったか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業への積極的参加 総合点の 20%</li> <li>2. 期末レポート 総合点の 50%</li> <li>3. 課題小レポート 総合点の 10%</li> <li>4. 日常の学習状況 総合点の 20%</li> </ol>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>乳幼児は、自らが置かれた環境や周囲の大人からの影響を強く受けます。この科目を通して領域「表現」における音楽について、基礎的な知識やスキルを身に付けることは幼稚園教諭免許状や保育士資格を取得する上で非常に大切なことです。しかしそれ以上に、将来出会うことになる子ども達に少しでも良い影響を与えられるように、自らの人間性や美的感性、豊かな情操を育んでいくことが求められます。そのためには、本科目の授業だけでなく、日常的に美しいものに触れたり創造しようとしたりする営みが必要だと思います。本授業ではかなり多くの時間をグループワークに割きます。クラスメイトとの協働を楽しみながら、相互の感性の違いに触れて刺激を得る機会としていただきたいと思います。また、必ず枚授業終了後、授業の振り返りを書いて頂きます。自身の理解度や演奏の習熟の進捗を、常に確認する習慣を持ちましょう</p>			
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	領域「表現」のねらい及び内容 授業ガイダンス グループワーク簡単な即時反応のエクササイズ	事前学習	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読んでおく。	
		事後学習	授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	
第 2 回	乳幼児の表現の発達① 表現の芽生え わらべうた遊び・即時反応とリズム活動	事前学習	乳児期の音による表現の芽生えについて具体例を考える。	
		事後学習	乳児期の子どもとの音との関わりについて復習する。	
第 3 回	乳幼児の表現の発達② 幼児の素朴な表現 手遊び歌・即時反応と歌唱活動	事前学習	乳児期・幼児期前期の子どもとの音による素朴な表現について具体例を考える。	
		事後学習	乳児期・幼児期前期の子どもとの音による素朴な表現について復習する。	

第4回	乳幼児の表現の発達③ 小学校低学年「音楽」への学びの連続性 言葉と音楽・平易な歌唱	事前学習	乳幼児期の音や音楽による表現とその後の小学校低学年の「音楽」による学びについて教科書を読んでおく。
		事後学習	乳幼児期の音や音楽による表現とその後の小学校低学年の「音楽」による学びについて復習する。
第5回	環境との対話① 自然環境のなかの音に対する気づき サウンドスケープとサウンドウォーク	事前学習	子どもは自然との触れ合いを通して音に対してどのような気付きがあるかについて具体例を考える。
		事後学習	子どもは自然との触れ合いを通して音に対してどのような気付きがあるかについて復習する。
第6回	環境との対話② 自らの感性を開くことによる豊かな感受性の醸成 サウンドスケープと身体運動を通じた活動	事前学習	子どもは自分を取り巻く様々な環境（自然やモノや人の声・歌等）の音や音楽してどのように受け止めるかについて考える。
		事後学習	子どもは自分を取り巻く様々な環境（自然やモノや人の声・歌等）の音や音楽を受け止めることにより感受性を育むことについて復習する。
第7回	音楽遊び① 身の回りの素材による音遊び 楽器製作と簡易的合奏①	事前学習	乳児期・幼児期前期の子どもの身近なモノによる素朴な音遊びの具体例を考える。
		事後学習	乳児期・幼児期前期の子どもの身近なモノによる素朴な音遊びについて復習する。
第8回	音楽遊び② 自らの声や楽器による音楽遊び 声にちなむわらべうた遊びと造形	事前学習	幼児期の音楽遊びについて具体例を考える。
		事後学習	自分で歌うことや楽器を用いることによる幼児期の音楽遊びについて復習する。
第9回	音楽による豊かな表現① 表情豊かな歌唱表現 手遊びと造形	事前学習	自分の幼児期を振り返って、歌うことのもつ表現の楽しさについて考える。
		事後学習	子どもにとって自分で歌うことのもつ表現の楽しさについて復習し、理解を深める。
第10回	音楽による豊かな表現② 合唱や合奏による協同性を伴う表現の楽しさ 楽器製作と簡易的合奏②	事前学習	子どもが友だちと一緒に合唱や合奏を行う具体例を考える。
		事後学習	友だちと一緒に合唱や合奏を行う場合には協同性を発揮することでより楽しくなることについて復習し、理解を深める。
第11回	音楽遊びの「学び」の視点① 簡易な楽器によるリズム遊びを考える 小物打楽器を用いた合奏①	事前学習	簡易な楽器によるリズム遊びについて調べておく。
		事後学習	簡易な楽器によるリズム遊びの演習により「学び」についての気付きを整理し、理解を深める。
第12回	音楽遊びの「学び」の視点② わらべ歌や手遊び歌を考える 小物打楽器を用いた合奏②	事前学習	わらべ歌や手遊び歌について調べておく。
		事後学習	わらべ歌や手遊びの演習により「学び」についての気付きを整理し、理解を深める。
第13回	イメージを音に表現する① 自らの心情を声や楽器により表現する 即興的身体運動と模倣①	事前学習	歌や楽器の演奏による表現に向けて準備する。
		事後学習	歌や楽器の演奏を一人で、または複数人で行い、イメージを表現することに向けて工夫したことを振り返り、整理する。
第14回	イメージを音に表現する② 言葉のイントネーションやリズムを生かして簡易な曲を創作する 模擬保育を想定した計画	事前学習	曲の創作に向けて準備する。
		事後学習	言葉のイントネーションやリズムを生かした簡単な曲を創作し、イメージを表現することに向けて工夫したことを振り返り、整理する。
第15回	模擬保育	事前学習	映像資料の活用について考える。
		事後学習	本授業を通して学んだことを振り返り、各課題に関するポイントを整理してノートを作成する。